

(仮称)こどもの森基本構想

平成 24 年 10 月

練馬区

目次

はじめに	1
1 事業検討の背景	2
2 こどもの森とは	4
3 施設整備に関する基本的な考え方	7
4 設置運営のあり方	9
5 事業の取り組み方針	11
(参考) 体験イベントの状況およびアンケート結果の概要	13

はじめに

「(仮称) こどもの森」については、練馬区基本構想に基づくみどりプロジェクトの事業計画に位置付け、その実現へ向けて、体験イベントやアンケート調査を行うなど事業を推進してきた。

今回、体験イベントの参加者や庁内関係部署の意見を参考に「(仮称) こどもの森」についての基本的な事項を整理し、基本構想をまとめた。

今後、地域や関係団体との協働により、さらに体験イベントなどを実施して事業内容を検討するとともに、議会や区民からの意見を伺いながら整備や運営に向けた検討を行っていく。

1 事業検討の背景

(1) 自然の中の自由遊びの不足

- ・かつては多くの農地や樹林に囲まれた練馬区も、宅地化が進み多くのみどりが失われている。
- ・次の世代を担う子どもたちが、公園のような利用制約がなく、自然の中で自由に遊べる場所もなくなっている。
- ・練馬区の特性を生かし、子どもたちがみどりに囲まれた空間で自由な発想のもとに動き回れる場が求められている。

(2) 体験イベント参加者の意見

事業の検討にあたり羽沢緑地予定地等において、利用制限を設けず自由に遊べる体験イベントを実施し、参加者から意見聴取を行った。

【体験イベントの概要】

- ①開催日 平成23年11月12日(土)、13日(日)
- ②場所 羽沢二丁目緑地予定地、羽沢けやき憩いの森
- ③目的 森で自由に遊ぶ体験を通じて、利用者の反応、感想などの意見集約をし、基本構想に反映させる
- ④主なプログラム
冒険遊び(模擬ツリーハウス等)、キウイ収穫 ほか
- ⑤参加者数 457名
- ⑥アンケート回収数
309件
- ⑦協力団体 開進第四小学校、開進第四小PTA、羽沢町会、仲二町会、日本ボーイスカウト東京連盟練馬地区、NPO法人あそびっこネットワーク
- ⑧安全性確保 イベント当日はスタッフを各プログラムコーナーに配置して危険の事前回避に努めた。(イベント参加者に対しては傷害保険に、模擬ツリーハウス設置期間中については、施設賠償責任保険に加入)

【参加者アンケートの結果】

体験イベントに参加した大人からは、「こどもたちの自然とふれあう機会の必要性」について、129 人のうち無回答の 5 件を除けば 100%の 124 人が必要であると回答した。「冒険遊びができる場所の必要性」についても無回答を除けばほぼ 100%の人が必要と回答している。

また、参加したこどもたちからの回答では、体験イベントが「とても楽しかった」と「楽しかった」の両方を合わせて 97%を占めている。

※参照 (◆体験イベントでのアンケート結果の概要)

2 こどもの森とは

(1) 事業の目的

区内には、公園（都立、区立）、緑地、児童遊園、憩いの森、街かどの森などさまざまな施設があるが、こどもたちが自然の中で自由に遊べる空間はほとんど無い。一方で、区内には農地・屋敷林・雑木林など「練馬の原風景」（注1）といえる場所がまだ比較的多く残っている。

練馬のみどりを継承し、将来にわたり保全していくためには、次世代を担うこどもたちが地域のみどりに直接接触し、親しみ、自由な遊びを通じた「原体験」（注2）によって、その豊かさや価値を実感することが重要である。

そこで、こうした現状認識と事業検討の背景を踏まえ、本事業は、こどもたちが練馬のみどりの中で交流しながら楽しむ自然体験や自由遊びを通して地域や環境への愛着を深めることにより、ねりまのみどりの保全と創出に向けた区民の意識を高めていくことを目的とする。

（注1）練馬で昔から多く見られた農地、屋敷林、雑木林の風景を「練馬の原風景」と定義する。

（注2）人間の形成にとって必要とする体験学習の一つで、人間の五感（視・聴・嗅・味・触）を使った初歩的な体験を示す。その他の学習体験としては、自然的体験、社会的体験、経済的体験、文化的体験がある。（出典：環境教育指導辞典、佐島群巳）

(2) 事業の名称（仮称）

こどもたちが、雑木林などの自然の中で自由に遊び、みどりに親しむ場となることから、事業の名称を「（仮称）こどもの森」とする。

(3) 利用対象者

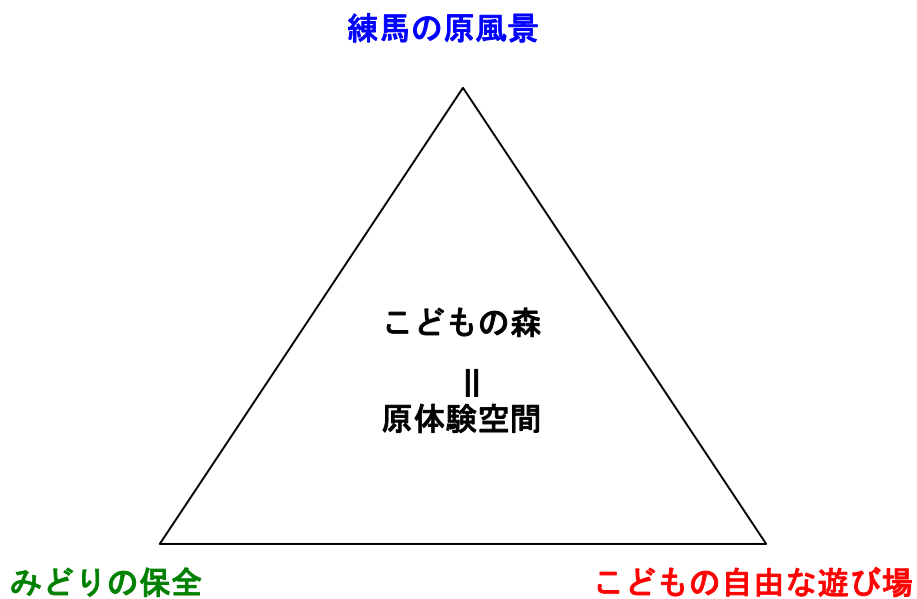
「土」、「水」、「木」、「火」、「生き物」などの自然環境の中で利用者の年齢にあった遊びが発生してくること、また、各施設遊具等に応じた多様な遊び方があることから、利用対象者は乳幼児から中高生までのこどもおよび保護者とする。

(4) こどもの森の3つの理念

事業目的から、こどもの森は

- ・ 地域のみどりを保全する意識を高める
- ・ 冒険や挑戦ができる自由な遊び場を創出する
- ・ 練馬の特徴的な原風景を活用する

の3つの理念によって支えられた「こどもの原体験空間」と捉えることができる。これらの理念で支えられた事業とすることにより、こどもの森は他の類似事業と区別された独自性を持つ事業と考えられる。



(5) 類似施設や事業との比較

こどもの森を、こどもの遊び場としての「公園」、森を活用した「フィールドアスレチック」、自由な遊び場としての「プレイパーク」と比較すると、概ね下記のとおりである。

	一般的な公園	フィールドアスレチック	プレイパーク	こどもの森
設置目的	幅広い年代の日常的なレクリエーションの場	こどもたちが自然の中に配置された遊具のコースで野外運動を行う場	こどもたちが屋外での自由な遊びを通じて自主性・社会性・コミュニケーション能力を育む場	こどもたちがみどりの中での自然体験や冒険遊びを通してみどりの豊かさを実感する場
立地	—	雑木林など	公園の一角など	雑木林など
施設	園路、広場、植栽、休養施設など	自然を生かした遊具のコース	—	自然を生かしたツリーハウスなど最小限の施設
遊具	設置済み	同左	原則未設置	ロープワークなど最小限の施設
利用時間	原則 24 時間	同左	時間制限がありうる	同左
利用形態	開放	同左	利用時間外は閉鎖もありうる。	同左
管理形態	原則として無人	同左	有人。但し安全確保のため最小限度。	同左
遊びの自由度	禁止規定と設置遊具により遊び方が限定される。	禁止規定と設置コースにより遊び方が限定される。	危険・迷惑行為以外は自由な遊びができる。	危険・迷惑行為以外は自然の中で自由な遊びができる。

3 施設整備に関する基本的な考え方

(1) 整備場所の選定条件

ア 立地条件

- ・核となるみどり（樹林や農地のある公園や緑地）があること
（例）区立緑地、憩いの森
- ・物理的・心理的なアクセスのしやすさがあること
（例）交通量の多い道路の横断箇所がない、自転車でのアクセスがしやすい。
- ・土地の将来担保があること
（例）公有地または比較的長期にわたって区が借用可能な民有地であること

イ 周辺環境

- ・周辺住民の理解があること／住宅密集地に隣接していないこと
（例）こどもの元気な声が騒音と解釈されない
- ・周辺地域において住民の交流の場になること
（例）子どもたちの遊び場、親達のたまり場、地域住民の憩いの場

※参照 （◆体験イベントでのアンケート結果の概要）

ウ その他

整備場所の選定については、上記以外にも様々な条件について検討し、選定することが必要となる。

(2) 整備内容等

ア 基盤整備

利用者にとって最低限必要な基盤施設を整備する。

（例）上下水道、トイレ、照明、駐輪場等

イ 整備内容

- ・整備した方がよいもの

基本的に、遊びのきっかけをつくるための整備を優先し、作り過ぎないようにする。

（例）水あそび（流し、洗い場、水栓）、土あそび（穴掘り）、木あそび（果樹、樹木、木材）、遊びの拠点施設（管理小屋など）、ロープ、工具、布、備品、木材などの格納倉庫

- ・整備が望まれるもの

やや高度な施設は、利用者や管理運営者の動向を見ながら整備していく。

（例）ツリーハウス、管理施設、かまど

- ・整備しすぎない方がよいもの

- (例) 完成した遊具、自由度の少ない遊具、騒音や埃などを発生させるもの

ウ 配置やゾーニング

施設や遊具については、利用動線が交錯しないこと、動的な遊びの場の配置は周辺環境へ配慮することが必要である。

- (例) ターザンロープ、ハンモックなどの動的遊具の周辺には他の利用動線を設定しない

エ 試行的整備の検討（作る過程を楽しむ）

整備する内容や場所などは、主人公である子どもたちの声も聞きながら徐々に作りあげていき、さらに作り変えも可能にしておくことも検討する。（その過程がこどもの森の特徴であり、楽しさであるため）

- (例) 秘密基地づくり（子どもたちの自作）、農作物等の育成や世話、子ども主催のまつり（期間限定）など

4 設置運営のあり方

(1) 設置形態

種 別	説 明
イベント的開催	年間〇回、毎月第〇〇曜日など特定の日にイベントとして開催する。開催日ごとに場所の変更もありうる。
常設	場所を定めて常設の施設を設置し、通年で冒険遊びができる施設を開設する。

こどもの森の設置に関しては、上記の 2 つのパターンが考えられるが、イベント的開催の検討を踏まえ、常設施設を整備することを主眼として検討を進めることとする。

まず、単発の体験イベントを開催し、アンケート等により利用者のニーズを把握する。イベントの運営には学校、PTA、町会、野外遊びを主催する団体等の協力を得て実施することにより、設置運営に当たっての課題や問題点を明らかにしていく。

次に、定期的に体験イベントを実施し、その検証を経たうえで常設施設の設置へ向けて検討を進める。

(2) 設置運営主体

種 別	説 明	事 例
公設民営	自治体が設置し、民間団体へ運営を委託する。(指定管理者を含む。)	茅ヶ崎市市民の森 (ボランティアによる設備の維持管理、委託による監視員の配置)
民設民営	民間団体 (地域の住民団体や NPO など) が設置し運営する。 自治体による運営補助制度の活用。	世田谷区プレイパーク (当初住民グループが設置運営し、その後 NPO 法人化)

地域コミュニティへの支援と協働推進の観点からは、世田谷区のプレイパークのように民設民営で始まり、その後自治体が支援する方法も適している。

しかし、(仮称) こどもの森については、練馬のみどりを保全・活用することにより、次世代を担う子ども達が自然を満喫し、環境への意識を高めることを目的に設置するため、自治体が設置することが望ましい。その場合、施設開設に合わせて施設運営を担う団体についても選定をしておく必要がある。運営を担う団体としては、地域の町会、PTA、こどもの冒険

遊び等に専門性を持つ団体などが候補として考えられるが、遊びの安全確保と、周辺住民を含む地域との協力を両立できる団体を視野に入れて検討を進める。

(3) 安全性確保と運営団体の考え方

ア 見守る大人の姿勢

- ・安全性の確保は最重要事項である。
- ・一方、冒険遊びには、スリルを味わい、未知のことにも挑戦するという要素があるからこそ楽しいという面が有り、こどものそうした遊びを見守る大人の存在が必要である。
- ・安全性の確保は大事であるが、こどもが自らのレベルにあった遊びをするときには、介入せずに見守る姿勢（勇気）が重要になる。

イ 運営団体の備えるべき能力

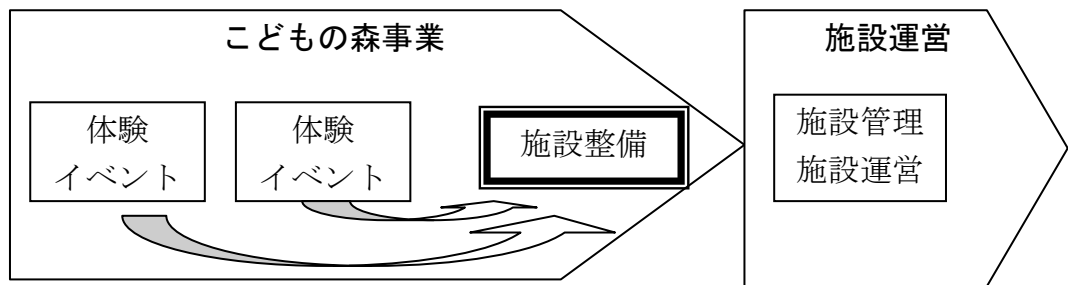
- ・運営者がすべき危機管理として、事前に危険因子（ハザード）を除去しておくことが重要である。（万が一事故が起きたときの対応能力や保険加入なども必須）
- ・運営団体には、冒険遊び場づくりの技術と経験のあるスタッフの存在が必須であり、そうした能力のある人材を保有する団体や、人材育成を進めていく仕組みをもった団体の選定が必要である。

(4) 利用者へのコンセンサスづくり

- ・一般の公園との違いを明確にし、「通常の公園とは違って、自分の責任で自由に遊ぶ」ことの周知が重要である。

5 事業の取り組み方針

(1) 事業の流れ



冒険遊びのイベントを地域の協力を得て単発で開催し、課題や問題点を明らかにするとともに、イベント参加者からの意見・要望を集約し施設整備に反映していく。施設整備後は常設施設として管理運営を行うことを目標とする。

(2) 地域住民との協働を前提とする

ア 事業を成立させるための行政と区民のパートナーシップ

【行政の役割】

- ・ 事業内容を明確にし、個別の検討プロセスには区民参加を呼びかける。
- ・ 条件に合った土地を確保し、敷地内に最低限の施設整備を行なう。
- ・ 区の施策として事業を位置付け、こどもの森の継続性を担保する。
- ・ 民間の活力の活用に努めながら目的達成のための運営を行う。
- ・ 初期段階では試行的運営（体験イベント）の実施主体を担う。
- ・ 冒険遊びを可能にする法的な位置付け(条例、管理規定等)を検討する。

【区民の役割】

- ・ 既存のみどりの保全や育成に地域として関わる。
- ・ こどもの森を通じて、自然環境保全だけに留まらず、子育て・福祉・環境美化・地域のコミュニケーションなどの地域力を向上させる。
- ・ 個人の立場であっても、可能な範囲で運営に関わる。
- ・ 行政からの呼びかけにより、検討プロセスから参加する。

イ 協働参画の場の設置

- ・ 整備候補地周辺の地域関係者への情報提供と意見の収集

具体的に整備場所が決定した場合は、開所までの協働参画のプロセス（道筋）案を示し、区民からの意見を収集するとともに、要望を事業に反映する。

- ・ 意見交換の場の設置

地域住民との意見交換の場として、ワークショップや協議の場を設ける。

(3) こどもの視点を大切にする

ア 体験イベントの企画・開催

- ・整備候補地における試行的体験イベント

候補地の条件にあった試行的な体験イベントを企画・実施し、主人公のこどもたちを中心に参加者の反応結果を整備内容や運営方針にフィードバックする。

イ 設置後のこどもの視点の導入

- ・設置したあとの整備施設等の作り変え

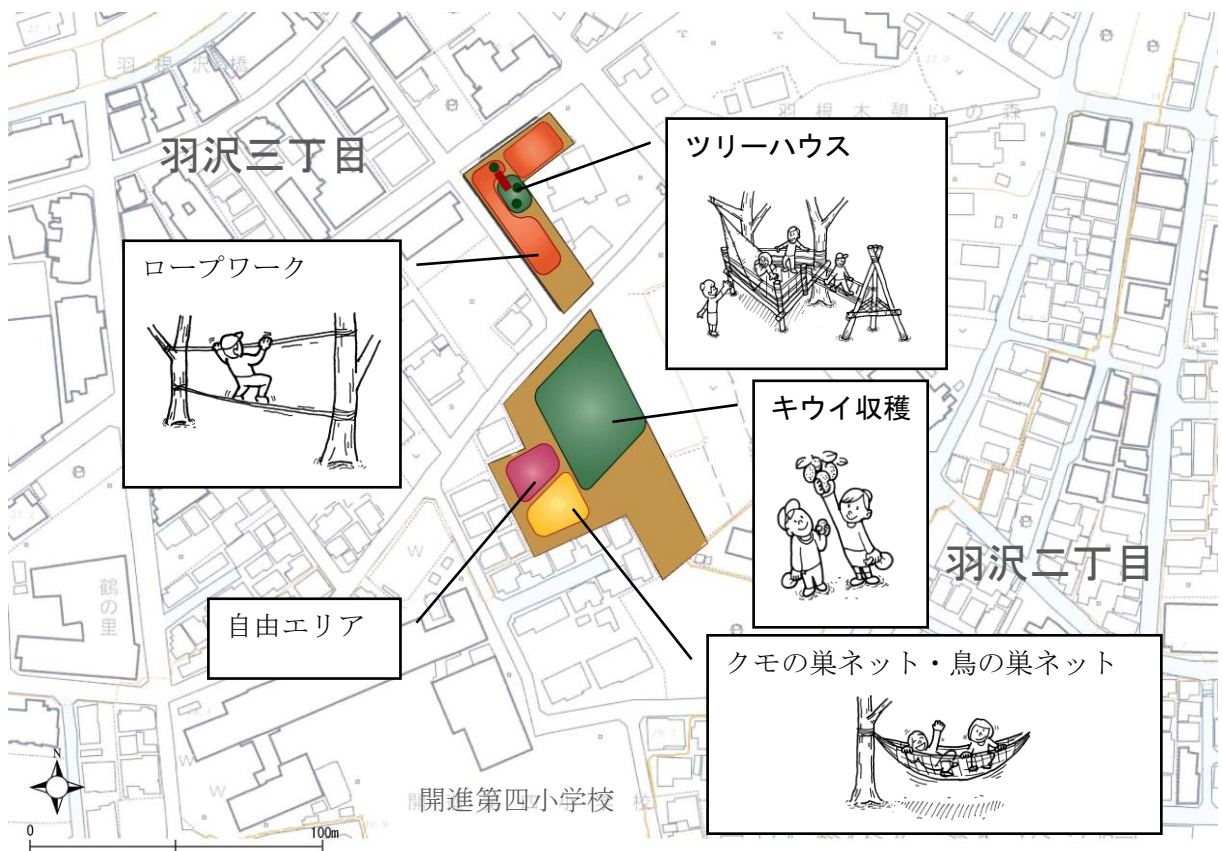
最低限の基盤施設以外は、改変することが可能な余地を残し、こどもたちの視点から問題点、創意工夫点が出た場合は、協議の上作り変えていく。

- ・設置したあとの運営内容の改良

こどもたちの視点から見て遊具等の使い方、提供プログラムの内容、運営スタッフの接し方など、運営上の課題や問題が出た場合は、協議の上改善していく。

(参考) 体験イベントの状況およびアンケート結果の概要

1 体験イベントの状況



・模擬ツリーハウス体験

木と木の上にデッキを設置し、ツリーハウスに登っているような雰囲気を感じ。

デッキと組み合わせてモンキーブリッジ等の遊びを追加することで冒険心を高めた。



- ・鳥の巣ネット体験

樹木の枝分れ部分にネットを張り、鳥の巣の中のような遊びを展開。果樹のように枝下が低い樹木にも幼児・低学年用にネットを張り体験可能にした。

- ・クモの巣ネット体験

樹木を支柱としネットを張り、クモの巣のような移動を楽しむ。また、工夫によりハンモックのようにも遊んだ。



- ・ロープワークプログラム

木につながれたロープを使い、自然の中での遊びを楽しんだ。



- ・キウイ収穫プログラム

キウイを収穫し、ジャムづくりなどのレシピ紹介などを通してキウイ畑に愛着を持ってもらった。



- ・ 工作プログラム

自然の材料を使って森の中で工作体験を行い、それを用いて様々な遊びを展開。



- ・ 自由遊び

自らの発想で自由に遊んだ。(穴掘り、秘密基地づくりなど)

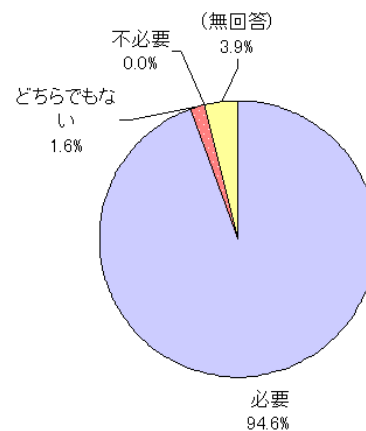


2 体験イベントでのアンケート結果の概要

Q 「自然と親しみながら冒険遊びができる「(仮称) こどもの森」を区が整備することに関して、どう思いますか？」(

選択肢	回答数(件)	構成割合(%)
1. 必要	122	94.6%
2. どちらでもない	2	1.6%
3. 不必要	0	0.0%
4. (無回答)	5	3.9%
合計	129	100.0%

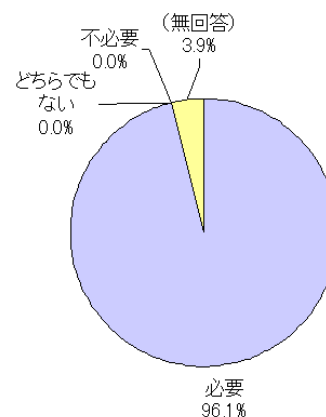
(n=129)



Q 「子どもたちにとって、身近に自然とふれあう機会は必要だと思いますか？」(大人のみ) の設問に対し、全ての方が、必要だとした。(無回答を除く)

選択肢	回答数(件)	構成割合(%)
1. 必要	124	96.1%
2. どちらでもない	0	0.0%
3. 不必要	0	0.0%
4. (無回答)	5	3.9%
合計	129	100.0%

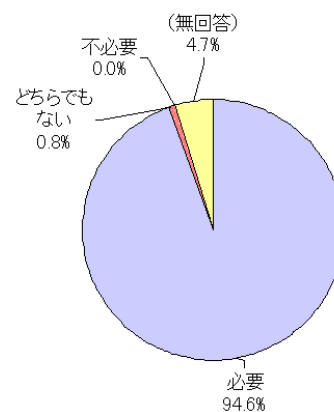
(n=129)



Q 「通常の公園とは異なる「冒険遊び」ができる場所は必要だと思いますか？」(大人のみ) の設問に対し、約 99%以上の方が、必要だとした。(無回答を除く)

選択肢	回答数(件)	構成割合(%)
1. 必要	122	94.6%
2. どちらでもない	1	0.8%
3. 不必要	0	0.0%
4. (無回答)	6	4.7%
合計	129	100.0%

(n=129)



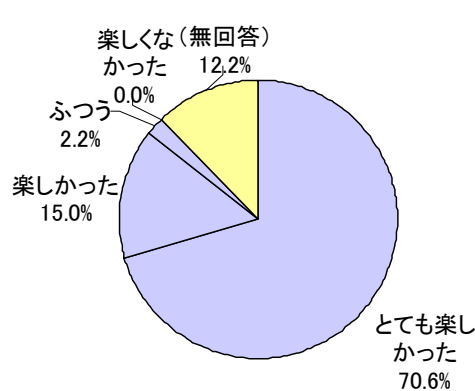
Q「イベントは楽しかったですか？」(大人及び子ども)の設問に対し、「とても楽しかった」「楽しかった」と回答した方が、約97%以上いた。(無回答を除く)

選択肢	子ども			大人	
	回答数(件)	構成割合(%)	(参考) 無回答を除く 構成割合	回答数(件)	構成割合(%)
1. とても楽しかった	127	70.6%	80.4%	92	71.3%
2. 楽しかった	27	15.0%	17.1%	31	24.0%
3. ふつう	4	2.2%	2.5%	1	0.8%
4. 楽しなかった	0	0.0%	0.0%	0	0.0%
5. (無回答)	22	12.2%	-	5	3.9%
合計	180	100.0%	100.0%	129	100.0%

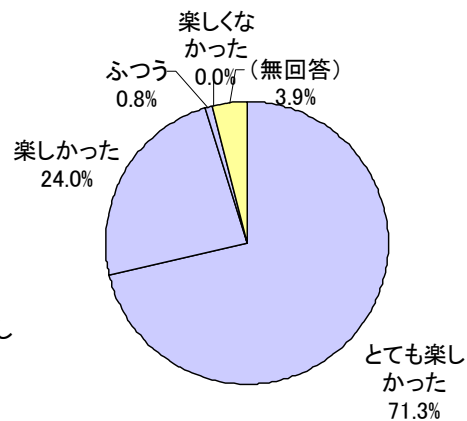
(n=180)

(n=158)

(n=129)



子ども



大人

①安全面に関する意見：36件

- ・安全性(監視体制、点検、ケガなどの面)、防犯性を高く
- ・イベント時以外での安全、防犯対策

②管理・運営・遊び場の方向性に関する意見：29件

- ・大人の見守り体制の充実、子どもと一緒に遊べるスタッフの導入(見守り、サポート、遊びやルールを教える)
- ・定期的な清掃や点検、管理の充実、安全面の管理
- ・子どもが自ら危険を学べるような場所、自由さのある場所、冒険の場所(大人の過干渉を減らす)
- ・自然を活かした遊びの場づくり
- ・地域密着型

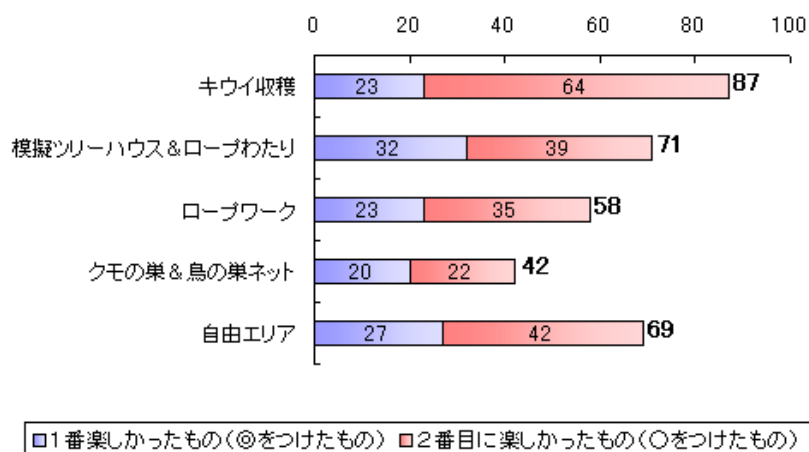
- ③自然活用に関する意見：4件
 - ・自然を活用した整備
- ④遊びのルールに関する意見：3件
 - ・遊びのルールづくり
- ⑤整備場所に関する意見：1件
 - ・色々な場所に設置してほしい、こどもが歩いて行ける近所にあるとよい
- ⑥その他：6件
 - ・どの年代でも遊べるような公園整備

Q「楽しかった遊びについて」（こども）に対して、「1番楽しかった遊び」として1番多かったのは、「模擬ツリーハウス&ロープわたり」であり、2番目は「自由エリア」となった。「2番目に楽しかった遊び」として多かったのは「キウイ収穫」であった。

選択肢	一番楽しかった遊び (◎をつけたもの)		二番目に楽しかった遊び (○をつけたもの)		合計	
	回答数 (件)	構成割合 (%)	回答数 (件)	構成割合 (%)	回答数 (件)	構成割合 (%)
1. キウイ収穫	23	18.4%	64	31.7%	87	48.3%
2. 模擬ツリーハウス&ロープわたり	32	25.6%	39	19.3%	71	39.4%
3. ロープワーク	23	18.4%	35	17.3%	58	32.2%
4. クモの巣&鳥の巣ネット	20	16.0%	22	10.9%	42	23.3%
5. 自由エリア	27	21.6%	42	20.8%	69	38.3%
6. (無回答)	56	-	10	-	4	2.2%
	181	100.0%	202	100.0%	331	183.9%

(n=180)

※二つ以上◎をつけた1人及び二つ以上に○をつけた19人を含む



Q「この場所でやってみたい“あそび”や、あったらいいなと思う“もの”
およびそのほか自由意見について（こども）」

【やってみたい遊び】

木登り（6件）

温泉作り（2件）

他の果物狩り（2件）

どんぐり拾い

【あったらいいなと思うもの】

すべり台（8件）

（中身の出る）絵の具（3件）

ターザンロープ（8件）

キャラクター（2件）

ロープウェイ（5件）

（鳥がたくさんいたから）鳥の

えさ台

シーソー（4件）

自由に遊べる広場

他

【感想】

たのしかった。（9件）

また（来年も）やってほしい。また来たい。（6件）

アスレチックがたくさんあったし、楽しかった。（4件）

ブランコが楽しかった。（4件）

今日の物がずっとあるといい。（4件）

いつでも来ることができれば良い。

いろいろなしげんにふれあえてよかった

草にささっていたかった。でも、ここをつぶすのはもったいない。

自然でできているブランコやキウイ収穫が楽しくできたからよかった。

ロープワークのコースがドキドキしておもしろかった。

お片付けも面白かった。

栄町には、こうゆう場所がないので、うらやましい。

【要望】

ツリーハウスを壊さないで欲しい。（4件）

もう少しアスレチックなど遊ぶものがあつた方がよかった（3件）

もうちょっと工夫をいれたアスレチックがあつたらいい。

時間が4時までだといい。

絵の具がちょっとしかなかつた。 他